

佳作

玖珠・北山田の家

～暮らしとふるさとのリノベーション～



大分工業
梶原 温人

設計主旨

【ふるさとの今】

玖珠町は父の実家。幼いころから野球に明け暮れた私。父の実家に遊びに行くのが楽しみだった。山間の風景、木々のそよぎ、陽光のきらめき、林間のたおやかな風を五感で感じた。祖父母の昔の話聞くのが好きだった。地域の活気ある暮らしと“今”を観る。私の住む大分市は利便性はあるが、時の流れが速すぎる。

【ふるさとに清む】

玖珠川沿いの平野部に開けたこの地域。山々の連なりが湾の入り江のよう。陽は稜線から昇り稜線に沈む。狭間に入れば木立の頭列を眺む。豊かな風景は情景を醸す。かつて賑わいを呈したこの地域も、郊外型ショッピングセンターや娯楽施設の立地に客を奪われ、少子化と共に地域の学校が次々と統廃合されてきた。高齢化の波にのまれている。コロナ禍のリモートワークという手段が生活に横穴を開けた。職住近接、公私の切り替えの暮らしが示された。日常にワンモアの夢を求めてふるさとに移り清む。

【設計する・・・こと】

実家は典型的な農家の造り、内玄関からの土間、表玄関からの田の字プラン。離れの風呂場、外置きの便所。設計方針は①夏涼冬暖の家②家族がいつも顔を合わせる家③台地に根付いた家④地域と共にある家「暮らしとふるさとのリノベーション」。

